

入選

ビワとおじいさん

山口県 神東小学校 2年 西村 仁里

わたしは、ビワがすきです。毎年、ビワのとれるきせつになると、近じよの人がたくさんくれたり、わたしのおばあちゃんの土地に生えているビワをとったりして、たくさんたべます。

今年も、おばあちゃんの土地に生えているビワが少しずつ大きくなっていて、わたしはまちきれなくて、まだあまくなっていないのにとってたべてしまったりしました。でも、ちゃんとあまくなるまで、もう少しまつことにしました。

何日もまって、やっとたべられるころになったある日、何こかなっていたビワがなくなっていました。おじいちゃんもおばあちゃんもだれもとっていないのに、なくなっていたのです。

毎年、ビワをたくさんくれる近じよのおばちゃんがあります。今年もビワをたくさんくれました。おばちゃんのところには、ビワの木がたくさんあって、

「ちがう木のビワがうれたら、またあげるからね。」
と言ってくれていました。

でも、おばちゃんのビワもある日なくなってしまったそうです。

わたしのお母さんやおばあちゃんや、ビワをくれようとしていたおばちゃんが話をして、なぜビワがなくなってしまったのかがわかりました。近じよにすんでいるおじいさんがとってしまっていたそうです。

そのおじいさんは、いつもニコニコしていてやさしい人です。わたしたちが外で遊んでいると、声をかけてくれます。でも、きょうが何月何日かがわからなくなったり、時間がわからなくなったりするそうで、わたしのお母さんやおばあちゃんは、いろいろなことを聞かれたことがあったそうです。

そのおじいさんもビワがすきなのか、家の近くのいろいろな木のビワをとっていたようです。

わたしは、ビワがあまくなるのを何日もまっていたので、たべられなかったのがざんねんでした。でも、わたしのおばあちゃんや、ビワをくれるおばちゃんは、ビワがなくなっても、おこったりこまったりはぜんぜんなくて、みんなニコニコしていました。

そのおじいさんはお年なので、そうなってしまってもしかたがないのだということを教えてもらいました。ほかの近じよの人も知っていました。そして、そのおじいさんがケガをしたり、こまったりしないように、みんなで気をつけているそうです。わたしたちも、お母さんから何か気がついたことがあったら知らせるように言われました。

すんでいる人は少ないけれど、みんなの小さな親切があつまると、おじいさんをまもってあげられるなと思います。